



秋祭り ～江戸太神楽～

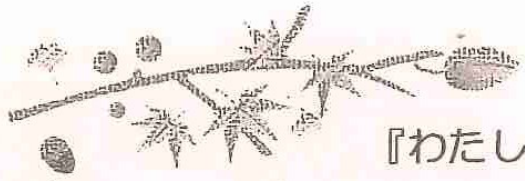


仙若さんのお手伝い




傘いただきました(>▽<人)


9月30日(土) 江戸太神楽の仙若さんをお呼びして秋祭りを行いました。グループホームえん、デイホームえん、多機能ホームまどか、グループリビング、利用者のご家族、そして地域のみなさん、総勢60名近くの方々が参加されました。今回もたくさんのボランティアさんにお手伝いいただき、利用者参加型のとても楽しいお祭りになりました。



『わたしが認知症になったとき』を考える



突然の解散、衆院選、そして驚くほどの自民党圧勝。選挙の翌日から、社会保障費関連の削減案が続々、当然のように介護費用も減らされます。与党議員の街頭演説で「介護を大切に政治を」と訴えているのを聞いたのですが、あれは空耳だったのでしょか。



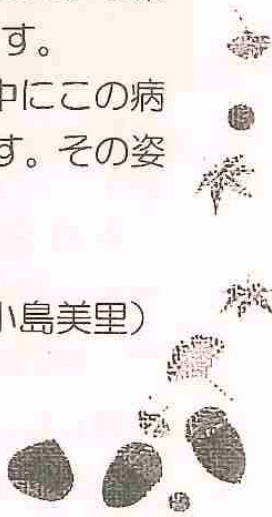
少し時間が経ってしまいましたが、この春印象に残る出会いがありました。4月に国際アルツハイマー会議参加のために京都に出かけたときのことで。京都駅に到着し、お昼を食べようとレストランの前で並んでいたら、バッグにつけたオレンジリング（認知症サポーターの印）を見て「この人も国際会議に参加するのかな」とおつれに話しかけた方がいました。40代ぐらいの素敵な男性で、見覚えがあります。「私も参加します。お目にかかったことがありますか」と話しかけると、「ぼくは忘れる病気なのです」と答えました。若年認知症当事者で活躍中の方でした。（わたしは、テレビや新聞などで拝見していただけ！）。食事をご一緒し、生活上の支援のこと、薬の副作用のことなど、失礼も省みず伺いました。この方は、翌日の開会式で開会の挨拶された丹野智文さんでした。

若年当事者が活躍しているのは、病気の認識をもった上でカミングアウトし、必要なサポートを受けているから。高齢期認知症の人々も同じことではないだろうか。それから、認知症についてお話するとき芯になる部分が変わりました。これまでは、家族や近所の方が認知症になったときどう支えるかという視点でお話ししてきましたが、「あなたが認知症になったら」に変えました。80歳以上まで生きると二人にひとりがかかるといふ病気です。高齢期に入ったら老後の生活設計の中に入れておいたほうが良い。過剰に怖がっているだけだと、いざ認知症になったとき病気を受容することが困難になります。「忘れる病気だから助けてね」と言えるほうが、本人も支え手も楽になります。もちろん支えあえる社会を創る努力があつての上です。

丹野さんを始め、若年当事者の方々が、仕事や子育ての真っ只中にこの病気を得て、苦しみ悩んだ末に、前向きに生きることを選んでいます。その姿勢から学んだことを少しでもお伝えしたいと思います。

困難を抱えて生きている人々みんなと支えあう社会を願う秋。

（代表理事／小島美里）



ケアサポートえん特別企画
～歌声喫茶“ともしび”に参加して～



9月10日(日)に行われた“ともしび”に参加させていただきました。
私は週二回、えんさんからヘルパーさんを派遣して頂き、お世話になって居ります。ほとんど家に居り、身心共に晴れない日が続いていた折、“ともしび”のお誘いを受け、案内状のアコーディオンという文字にもひかれ参加させていただきました。

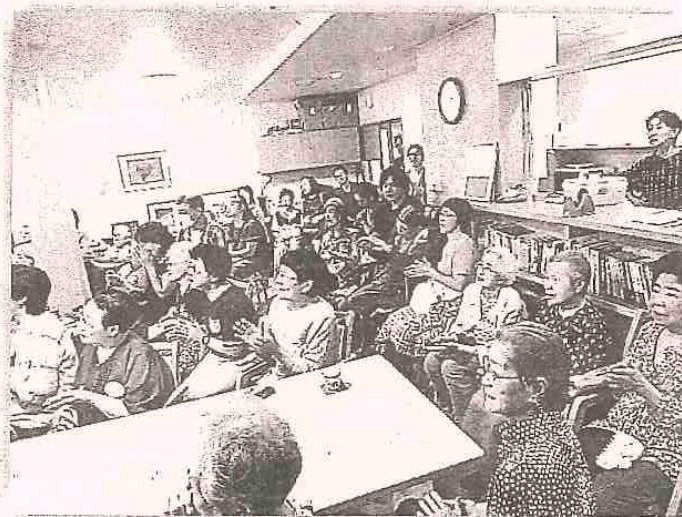
青柳常夫様の軽妙洒落な司会と歌の上手さ、リクエストに応じて、譜面無しでも直ちにアコーディオンを弾かれる小嶋弘遵様には、ただ驚きと感心で一杯で御二人は何者?と思い、どなたかに伺ってその経歴に納得致しました。お腹の底から声を出すということは、精神的にもとても良い様です。

最後の方にヘルパーの前田さんのお嬢ちゃんのリクエスト、「大きな古時計」を皆で歌い、私の好きなタンゴ「ラ・クンパルシータ」をアコーディオンで弾いて頂き、その素晴らしさに、大いに堪能させていただきました。

(ケアサポートえん利用者/高久捷子)



小嶋弘遵氏 青柳常夫氏



グループリビングえんの森にて

～歌声喫茶「ともしび」とは～

1954年 東京・新宿の食堂から歌声がひびき、そこから歌声喫茶「ともしび」が生まれる。

戦後復興の生き生きとした息吹きを受け、次々と歌声喫茶が生まれ国民的ブームとなった。

えんの森『だれでも文庫』誕生



今日はデイホームえんへ行く日。朝、「お父さん行って来ます」。夕方、満面の笑顔で「ただいま」。妻、葉子にとってさぞかし楽しい皆さんとの交流があったと思います。

ところが、この3月に腹痛を訴え精密検査の結果末期の胆管癌と診断され、3ヶ月の闘病生活の後帰らぬ人となってしまいました。えんにお世話になって1年8ヶ月の間、職員の皆様、利用者の皆様に大変お世話になりました。

遺品として葉子が若い頃やっていたおはなし会の本、人形劇の人形が少し残っており有益に使って頂く人を探していましたが、デイホームえんで引き取って頂けることになりました。絵本は子供に読ませる本ではなく、子供に読んであげる本とされています。活用して頂けたら幸いです。

(元デイホームえん利用者家族／寺本豊)

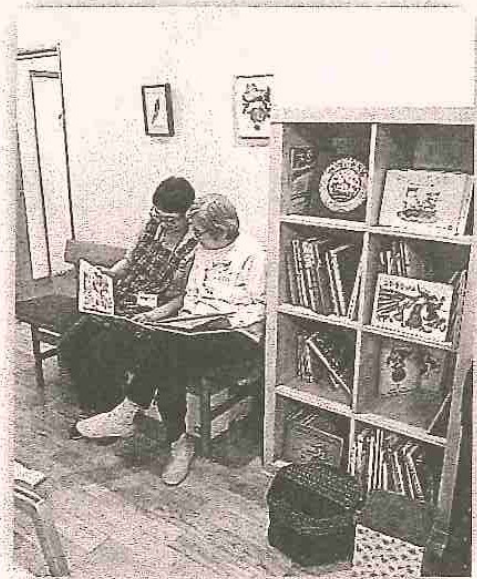
ある日のだれでも食堂終了後、話し合いでのこと。「いつかここに“だれでも文庫”ができたらいいなあ」とつぶやきました。

食堂では、昔遊びや読み聞かせ、腹話術や手品など見たり聞いたり、参加したりできるお楽しみのひとときがあります。その中に絵本や児童書を置いて、読んでもらえたらとの思いでした。すると「いいね、やりましょう」とすぐに賛同の声。さらに「少し古いけどえんに頂いた本があるよ」と小島代表。こうしてとんとんとんと、あっという間に“文庫”実現の運びとなりました。

寄贈されたたくさんの本は、デイホームえんに通われていた寺本葉子さんが長年大切にされていたものでした。物語絵本を中心にのりものや自然科学もの、日本や海外の児童文学の名作も揃って本棚はいっぱいになりました。

子どもも大人も、赤ちゃんからお年寄りまで、面白くて役にたつ一冊が、きっと見つかりますよ。

(ボランティア／山田弘子)



亡くなられた寺本葉子さんのご主人の思いが、ボランティアの山田さんによって子どもたちへつながりました。寺本さんとはたくさんの時間を共に過ごし、多くのことを学ばせていただきました。ありがとうございました。

(デイホームえん／三輪絵美子)

～消防訓練の日に思う～

平成 25 年 2 月の長崎市認知症高齢者グループホーム火災を契機に防火管理や近隣への応援体制、建築構造や通報・消火設備などの対策について検討が行われ、消防用設備の基準の改正がなされました。まどかは、開設当初にスプリンクラー設備、自動火災報知機、火災通報装置を設置しています。そして、年 2 回消防訓練を行い、その内の 1 回は埼玉県南西部消防本部片山分署から消防隊員が来て、近隣の方々にも参加していただいています。

今回は 9 月 15 日（金）に行いました。利用者さん、スタッフともに初めて訓練に参加した人もいました。みなさん積極的で、避難時間は 1 分 37 秒でした。消火訓練後、「消火器は軽くて簡単に使えそう」、「離れた所から消しながら近づいていくことがわかった。操作は簡単だった」、「良かったよ」「まあわからないよね。初めての経験だし」と各々参加した思いを聞かせてくれました。

夜間の場合、スタッフが 1 人のため近隣の応援が不可欠になります。これまで、まどかの防災対策として、『石神町会の防災講習会』『三町会合同の防災・避難訓練』に参加してきました。まどかは、一時避難場所が石神集会所、広域避難場所は石神小学校になります。今回、参加して下さった町会の防災担当の方から「まどかさんの建物もしっかりしているから、無理をして避難所に行くよりも、2～3 日動かずにいる方が安全かもしれない」とアドバイスがありました。まどかが近隣の方を受け入れる場所になるかもしれません。

歩いてすぐのところにもまもなく保育園が開園し、災害対策も含めて協力しあいたいと話しています。これからも火災だけでなく災害についても考え、近隣、町会の方たちと助け合い、安心して暮らしていければと思います。

(多機能ホームまどか／堀川 純)

訓練の概要

避難・通報訓練：出火場所を発見→初期消火→発見者は全ての人に声かけ
→事務所にいる職員が火事と出火場所を 119 番（コールセンター）に連絡
→同時に出火場所の近い方から二手に分かれて避難

消火訓練：水消火器を使用し消火



えんの食卓

(配食サービス)

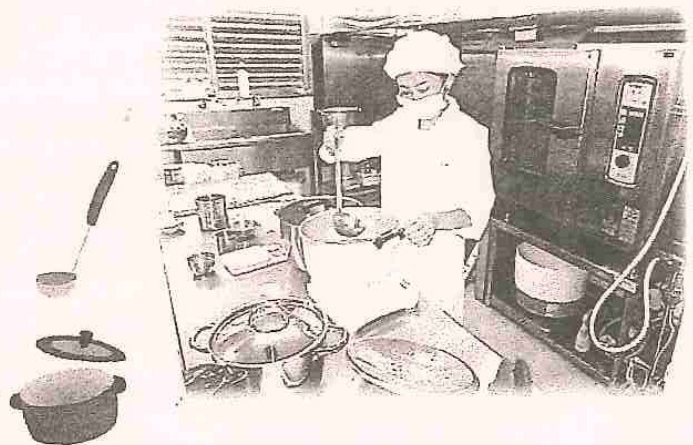
* 十文字学園女子大学の学生が今年も調理実習に来ました *

十文字学園女子大学の岡本先生に夕食の献立作成をお願いして3年になりました。高齢者向けの食べやすい献立を立てていただいています。リビングホームえんの森居住の方々の感想を参考に、調理をしています。その献立の中から昼食のお弁当のおかずに出すこともあります。そして、毎年岡本先生のゼミの学生4人が6~8月中、自分たちで献立を立て、8月の暑い中、4日間調理実習をしました。以下学生の実習感想です。

(えんの食卓/富山優子)

3ヶ月間の献立作成と調理実習をさせて頂いて、授業だけでは分からなかったことを多く学ぶことができました。特に利用者様の満足度の高い献立を立てるためには、年齢層による味付けや辛さの嗜好の差についてもっと勉強するべきだと感じました。たくさんのご意見やご指導ありがとうございました。(伊藤由香)

高齢者向け献立作成をテーマにゼミ活動を行なっています。その一貫として暮らしネット・えんの方々のご協力の元、嗜好調査、献立作成、実際の調理をさせて頂きました。現場だからこそ学ぶことがたくさんあり、作業のコツや給食を作ることの大変さややりがいを学ぶことが出来ました。(大塚三鈴)



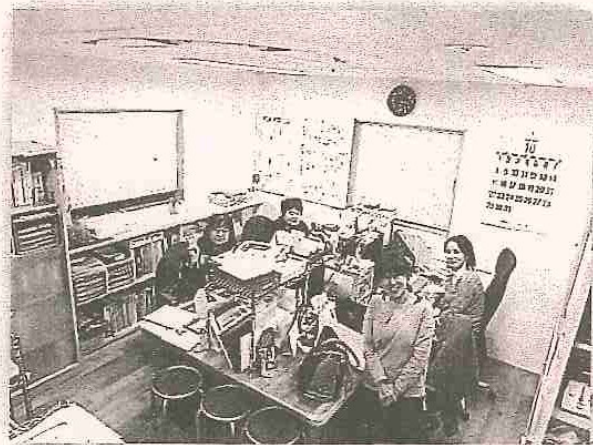
3ヶ月間、献立作成や調理実習を体験させて頂きました。授業以外で献立を作るのは初めての事で、未熟な部分も多々あったと思いますが、夕飯をご一緒させて頂いたときに、温かい言葉や親身になってアドバイスして頂きとても勉強になりました。(阿部千華子)

3ヶ月間の夕飯献立作成と調理実習をさせて頂きました。調理実習では、調理工程などの事も考えて献立を作成すること、また、利用者様の食事に対する様々な率直な意見を頂くことが出来て、より実践的な現場で学ぶ機会を得られとても良い経験となりました。(波頭めぐみ)

増築完成・・・そして落雷！

前回のえん通信でお知らせしました増築工事は、予定通り8月26日に完成、27,28日の週末に事務所の引越しをしました。

完成してなんにも無い時にはすごく広くなったと感じていましたが、机や椅子、棚が入って人が出入するととたんに狭く感じてしまいます。それでも前の事務所のスペースと合わせてみるととても広々として端と端で会話するのがたいへんになりました。以前は棚をあり合わせのスチール家具で賄っていましたが今回は奮発して全て作りつけの本棚にしたことが広く感じさせる要因になっていると思います。



実は竣工直前に雷が事務所の近くに落ち、事務所のエレベーター、パソコン、電気錠などいろいろなものが壊れてしまうアクシデントが発生、月末、月初の通常業務に加え、事務所引越しと落雷の復旧で9月中はバタバタしていましたが、ようやく落ち着きを取り戻しています。

(事務局／真中 寛)

感想2

雷が落ちたときはほんとうにびっくりしました。まだ遠くで鳴っていると思っていたらいきなりだったんです！パソコンが壊れたのもタイヘンだったけど、エレベーターが復旧するまで階段登れない利用者は車椅子ごと抱えあげることに。ご迷惑かけました。

感想1

以前はヘルパーが集中して戻ってくる時間帯は、押し合いへし合い状態でしたが、拡張工事でスペースが広がり、机が増え、ようやくゆったりと書類が書けるようになりました。でも奥行きが深くなった分、ケアマネジャーや事務局が遠くなった？ように感じます。連絡連携が行き届くように気をつけたいです。

みんなのコンサート

～輝くバリトンの世界～

曲目：荒城の月／秋の月／オー・ソレ・ミオ／オペラ「フィガロの結婚」より 他
※尚、曲目は変更になる場合があります。

日時 2017年11月19日(日) 開場 1:30 開演 2:00～

場所 新座市立中央公民館 体育室

会費 大人 1000円 子供(小学生) 500円

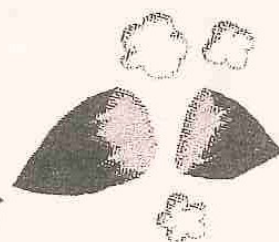
出演 黒田彰(バリトン) / 青木芙姫(ピアニスト)



～今年の焼き芋タイムは～

12月3日(日) pm～えんの庭にて

参加費: 100円 焚火を囲んでワイワイ

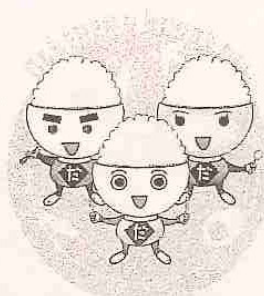


どなたでも
参加できます!

だれでも食堂 しょくどう ～月こいと、日曜日のおひるごはんを
みんなで作って、みんなで食べよう～

毎月最終日曜日 11:00～15:00(食事は 12:00 から)
グループリビングえんの森にて行います。

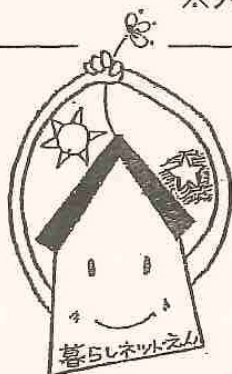
材料費: こども無料・おとな 300円



地域で暮らし続けていくために 2017年度新規・継続会員募集中!

正会員: 1000円 賛助会員: 3000円

※入会を希望される方は、事務局までご連絡ください。



■ 編集・発行 認定NPO法人暮らしネット・えん

〒352-0033 埼玉県新座市石神2-1-4

電話: 048-480-4150 FAX: 048-201-1311

Eメール: npoenn@jcom.home.ne.jp

ホームページ: <http://npoenn.com/>